緊急避妊薬を取り上げた研修会開催からみえてきたこと

　（一社）佐賀県薬剤師会　男女共同参画委員会

　〇片江富貴子、横尾京子、田崎美由紀、福島　徹、原田将光、相良ふみ子

柿沼純一、岩木裕一郎、宮地和子

【目的】　　　緊急避妊薬はその使用が緊急で特殊がゆえに、現在、供給の緩和が求められる

社会的背景がある。医療用医薬品のスイッチＯＴＣ化の議論の中に緊急避妊薬

が入ってきた。しかし現状はその適正使用に鑑み、OTC化に向けて慎重な立ち位

置にある。これまで保険薬局で取扱いがなかったこともあり、薬剤師にはあまり緊

急避妊薬の知識が無いのではといった予測を基に、当委員会では研修会の実施

を試みた。計画を立てる中で、その際にアンケートを実施することにより実態を把

握したいと考えた。

【方法】　　　「女性とピル」研修会とその際のアンケートを実施した。婦人科専門医に講師を依

頼し、EC（緊急避妊法）OC（経口避妊薬）全般の知識習得の講演会とした。研修

会は薬剤師はじめ医療関係者に主に呼びかけた。

【結果】　　　対象者はアンケート回答者61名（男性18人、女性43人）で、男性と女性の全体

の比率は3：7であった。男女別に20歳代～50歳未満（young）と50歳代～70歳

代（adult）で分類し比較すると、女性ではyoung 44.2％、adult 55.8％だったのに対

して、男性ではyoung 55.6％、adult 44.4％とyoungが上回った。 又、性別でのコ

メント記入者の割合は、男性では61.1％、女性では62.8％であった。記述を大枠

で分類すると、キーワード等として避妊薬の知識不足や正しい性教育の必要性が

大半を占めていた。

【考察】　　　テーマの特殊性から事前に女性の参加者が多いことは考えられたが、男性の参

加者が3割に至ったことは画期的であった。 更に男女を問わず数々の意見が寄

せられたが、そこからは避妊薬の知識不足と性教育の必要性が目立った。これら

は現状でのOTC化への不安要素とも考えられる。それを踏まえた上で、今後の

研修会開催の方向性を決めるキーワードとして参考資料の一つになり得た。